

本物に触れる驚きと面白さを!

●富田さんによる出張指導・葛飾中学校編!

昨7日は午後からウィーン在住の**声楽家・富田千種さん**(19回卒)による「出張指導」を2校で約4時間に亘り行いました。最初の講座は午後1時40分から2時45分まで、春日部市立葛飾中学校での「ふれあい講演会『ウィーンからの贈り物』」でした。



【ふれあい講演会で歌われる富田様】



【ウィーンの様子をスライドで紹介】

◆原語で歌う

講演の冒頭で富田さんから3曲の歌が披露されました。1曲目がモーツァルト作曲のオペラ『魔笛』の中から「俺は鳥刺し(パパゲーノのアリア)」をドイツ語の曲でした。鳥刺しが俺は鳥を捕らせたなら世界の腕前・・・と鳥笛を吹きながら陽気に歌います。最初は鳥笛に驚いた様子の生徒たち

でしたが、陽気な曲調に笑いも出ました。

2曲目は日本語の曲で「かごかき」、大阪の籠かきが客を乗せて大阪の名所を回る歌です。♪よいこらどっこいよさっさ／ほいかごほいかご／ほいほいほい／かごはいらぬか／のりゃしゃんせ……♪と始まる軽快で面白い曲です。

3曲目はイタリア・ナポリ民謡「帰れソレントへ」でした。地中海を望む風光明媚な港町をスケールの大きなカンツォーネで歌い上げています。

曲調も言葉も違う名曲3曲だったのですが、中学生にはどう聞こえたのでしょうか? 私も昨年は、曲の楽しさや美しさを感じるよりも、富田さんが歌われる曲はどんな歌なのだろうか、どんな情景を歌っているのだろうかと考えてしまい、楽しめませんでしたが、今年は大凡の内容を調べたので楽しむことができましたのですが・・・

* *

◆ウィーンの様子を伝える

続いての講演は、オーストリアの首都・ウィーンの様子です。人口180万人、ドナウ川と森に囲まれた都市、かつてはハプスブルク家のオーストリア帝国の首都として栄え、さまざまな歴史と文化を持つ町についてスライドで紹介していきます。さまざまな王宮や教会などのスライドも・・・

駅を中心とする日本の町に比べて、ヨーロッパの町は教会を中心として広がっていること、クリスマスは家族で過ごし年越しから新年は陽気に過ごす習慣の違いなどが説明されました。



【ウィーン(ウィキペディアより)】

* *

◆音楽の都と呼ばれる理由

ウィーンが音楽の都と呼ばれる理由について、ハプスブルク家の絶対的な力を背景とした宮殿音楽、その音楽を創り出していくモーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、ヨハン・シュトラウスなどの作曲家について歴史とともに話が進みました。天才モーツァルトがベートーヴェンの才能を嫌ったのか面会しなかった(面会の記録が無い)ことや、シューベルトがベートーヴェンの追っかけをしていたことなどが面白い話なのですが、生徒たちの興味を惹いたでしょうか? 現代はクラシックと呼ばれる音楽も、生徒たちに愛されるJポップと同様に250年前は先進的音楽だったのですが・・・

* *

◆全員で腹式呼吸と合唱を

最後の20分間は全員で発声に大切な腹式呼吸法を学び、それを生かして「翼をください」を合唱しました。

* *

◆本物に触れる

私たち春日部地区浦高会が目指しているのは、「音楽の都ウィーンからの贈り物」事業を通じて子どもたちに「本物に触れる体験」

を積み重ねてもらおうことです。それは1回、1時間かも知れませんが、ウィーンの街や音楽に触れてもらうことで、何処かにその体験や記憶が残ってくれば幸いです。私も中学時代に体験した管弦楽の響き、映画の迫力、狂言の不思議な空間、そして抹茶の淡い体験が蘇ってきます。来週15日は**500人の皆さんにウィーンの音楽体験を!**



【全員で腹式呼吸法を学ぶ】



【舞台の吹奏楽部と一緒に合唱】